

2021年6月12日

乗木養一

6年A漢字

熟の字誌

P. 2	精選案	当初からのA漢字ではない。
P. 3	配当学年	1948年教育漢字にはなかった。1968年備考漢字として読みを6年で指導することに。1977年から現在まで6年配当。
P. 4	使用状況	どの調査とも出現例は1000位以下。
P. 5	習得状況	字形を正確に把握するのがむずかしい。中学2年で「熟練」の書きが4割台という調査結果がある。
P. 6	音訓	音は小学校段階、訓は中学校段階に割り振られる。
P. 7	字形	「艹・ロ・子・丸・灬」で組み立てられており、 構成が複雑 。
P.12	字源説	原義が《煮る・煮える》とみる点で諸説は一致する。しかし、用例からこのことはいえるのであって、字体から確証をえることができない。 諸説は、説得力に欠ける 。とくに「艹・ロ・子・丸」の部分の字源は、不明なところもあり、とりあげる必要もない。
P.13	字義	核となる意味は《 時間をかけて、変える／変わる 》。原義の《煮る》、基本義の《くだものなどが熟す》、派生義の《十分な状態になる》に一貫して通じる。 (別ファイル「熟 語釈・文例集」参照)
	語イ	教育基本語イに「 未熟 」が選ばれている。果実の未熟、発育の未熟、経験の不十分さからくる未熟など、多義的なコトバである。 (別ファイル「熟 語イ表」「熟 語釈・文例集」参照) 「 熟す 」「熟する」とし字音読み漢字のサ変動詞がしばしばつかわれるが、初学者や非日本語母語話者にとっては、理解と運用に困難さがともなう。 (P.6 混種語動詞の語幹・活用語尾、および別ファイル「熟 語釈・文例集」参照)

1. 漢字表と精選案

1. 国字研精選案における「熟」の位置づけ

「熟」は、1946年告示の「当用漢字表」（1850字）にかかげられました。しかし、義務教育9年間の学習対象をしめした1948年「当用漢字別表」（教育漢字表、881字）にはなく、『小学校学習指導要領』の「学年別漢字配当表」では、1968年版に備考漢字（115字）として追加されたのが、学習対象と位置づけられたはじめてです。そして1977年版以降、6年配当となり、現在にいたっています。

	1978年8月	「小学校600漢字」にふくめない。(大久保忠利第1次私案)
	1978年12月	「小学校758漢字」にふくめない。(見城慶和・関可明修正案)
	1984年4月	「小学校600漢字」にふくめない。(小学校第1次素案)
	1987年8月	「 小学校で書けるようにする漢字 」に「熟」を採用。 (日野兎言研案をもとにした小学校第2次素案)
旧精選案	1988年8月	「 小学校で書けるようにする漢字 ・614字」に選択(小学校第3次素案)
	2009年8月	「 A漢字 —読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 (2009年改訂精選案)
	2010年5月	「 A漢字 —読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 (2010年補正精選案)
現行精選案	2017年3月	「 A漢字 —読み書き漢字。読み書き両方の力を定着させる・608字」に分類 (2017年学習指導要領改訂に対応の精選案)

国字研の「教育漢字精選案」では、当初の1978年8月の大久保忠利による「第1次私案」（600字精選案）は、「備考漢字は原則として認めない」という立場から、採用しませんでした。

その後、田村利樹を中心にした日野兎言研が精力的に検討をすすめ、「第2次素案」にまとめ、さらにそれをベースに1988年8月に国字研「第3次素案」に反映され、「熟」は、6年生で読み書き両方の力を定着させる「A漢字」に位置づけられました。大久保忠利私案から、10年の年月をついやし、現場の教員の実践をふまえた意見が反映されて、まとめられました。

それから20年後の2009年に国字研は、「第3次素案」を改定した「2009年改定（2010年補正）教育漢字精選案」を公表しました。現在では、これをもとに「1セット5過程」の実践をすすめています。

2009年改定は、紺屋富夫を中心に、ほぼ2年にわたり月例会で一字一字検討をし、国字研の複数の事務局員の試案をまじえながらまとめたものです。

精選の観点に「使用頻度、機能性（漢字語形成力）、必要性（学習や日常生活に必要であるか）が高いか」、学校教育において「適切な時間配分で指導できる漢字数か」（読みとり、作文、文法などの指導時間が確保できるか）をたてて、実際の漢字指導に生かすことができる「精選案」をめざしました。

2. 漢字表

- (1) 当用漢字表 (1946 年 11 月 16 日, 1850 字)
- (2) 当用漢字別表 (「教育漢字」1948 年 2 月 16 日, 881 字)
採用しなかった。
- (3) 当用漢字音訓表 (1948 年 2 月 16 日) 下図↓



- (4) 当用漢字字体表 (1949 年 4 月 28 日)

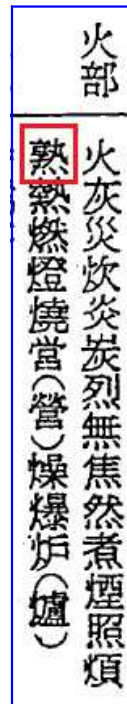
右図→



- (5) 当用漢字改定音訓表 (1973 年 6 月 18 日)
ジュク・うる (赤字の訓を追加)
- (6) 常用漢字表 (1981 年 10 月 1 日) ↓

熟	ジュク うる	熟練, 熟慮, 成熟 熟れる
---	-----------	-------------------

右図→



3. 小学校学習指導要領の配当学年の推移

告示	実施・使用開始	学習指導要領・教科書		教育漢字数
	1947 年 4 月	学習指導要領(試案)	[注1] なし	684
	1951 年 4 月	小学校学習指導要領(試案)	[注2] なし	881
1958 年	1961 年 4 月	小学校学習指導要領	なし	881
1968 年	1971 年 4 月	小学校学習指導要領	[注3] ビ6年	996
1977 年	1980 年 4 月	小学校学習指導要領	6年	996
1989 年	1992 年 4 月	小学校学習指導要領	6年	1006
1998 年	2002 年 4 月	小学校学習指導要領	6年	1006
2008 年	2011 年 4 月	小学校学習指導要領	6年	1006
2017 年	2020 年 4 月	小学校学習指導要領	6年	1026

[注1] 1947 年『文部省著作国語教科書』第 6 期国定読本 (いいこ読本) の提出学年と教育漢字数である。

[注2] 「881 字」は、義務教育期間中の指導字数である。「熟」はのぞかれていた。

[注3] 「ビ」学年別漢字配当表の欄外に「備考」として 115 字をしめし、そのなかに「熟」があった。1968 年版『小学校学習指導要領』は、第 6 学年の「2 内容」「B 読むこと」で「当用漢字別表の漢字を読み、また、当用漢字別表以外の当用漢字を 120 字ぐらい読むこと」とし、「3 内容の取り扱い」で「当用漢字別表の漢字以外の当用漢字を指導する場合は、学年別漢字配当表の備考に示す漢字を含めるように考慮するものとする」とした。

4. 音訓の学校段階別わりふり (2017年3月31日 文部科学省)

ジユク (小学校), うれる (中学校)

2. 出現頻度と習得状況

1. 使用状況

(1) 「現代新聞の漢字」 国立国語研究所 1976年

1966年1月1日付け～1966年12月31日付けの「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」3紙の朝夕刊全紙面につかわれた漢字を異なり字種ごとにまとめ、順位づけている。

それによると「熟」は、つぎのような順位となっている。

全体順位 **1529位**, 全体資料率 0.042%
 層内順位 政治1309位, 社会1604位, 経済1171位,
 文化家庭1190位, 運動芸能1701位, 広告1333位)

用語例

1529 熟[○] 42

ジユク 【41/15】
 直 熟す・る10
 罫 熟語 熟考 熟睡 熟成 熟知 熟慮 熟練 /
 円熟 習熟 成熟 早熟 不熟 未熟 爛熟

うれる 【1/1】
 直 熟れ(～近き熟交情の・短歌)

[注] 当時、「うれる」は、当用漢字の音訓になかった。

(2) 「漢字出現頻度表」2008年 文化審議会国語分科会

教科書での出現例は1088位。新聞での出現例は1300～1400位台。

漢字出現頻度表 順位対照表 (Ver.1.3)

凸版(3) 順位	漢字	種類	表外漢字 字体表	新聞調査 (朝日)	新聞調査 (読売)	ウェブ データA	凸版(3) 第2部
1328	奮	常用		1545	1492	1330	1682
1329	桜	常用		975	1192	591	1237
1330	熟	常用		1434	1359	1304	1088
1331	柱	常用		1244	1231	1650	1157
1332	排	常用		1047	1077	1346	892
1333	透	常用		1107	1098	1299	1278

2010年常用漢字表改定の際に、文化審議会が改定作業に使った資料。審議では、一般の書物である「凸版(3)」調査を基本資料とし、他の調査を補助資料と位置づけた。

「凸版(3) 第2部」は、凸版(3) 調査のうち教科書のみデータ。

凸版(3)順位	2004年から2006年までに凸版印刷が製作した864冊分の組版データ
新聞調査(朝日)	2006年10月1日から11月30日の期間の朝日新聞の紙面データ
新聞調査(読売)	2006年10月1日から11月30日の期間の読売新聞の紙面データ
ウェブデータA	2007年2月, 4月, 6月のウェブサイトのデータ
凸版(3)第2部	凸版(3)調査のうち教科書のみデータ

(2008年5月12日 文化審議会国語分科会漢字小委員会)

2. 習得状況

中学校1年当初の段階で、「熟す」の読みは7割、書きは3割となっている。書きがむずかしいことがわかる。

(1) 1982年 - 1984年「国立国語研究所調査」(東京都の集計)

	音訓	調査問題	1年下	到達度	1年上	2年上	4年上
読み	ジュク	熟す	30.5	71.5	86.0	92.5	100.0
書き	ジュク	かきの実が熟す	3.0	30.0	36.0	49.0	80.0

調査実施時期：1年下(小学5年11月), 到達度(中学1年4月),
1年上(中学1年11月), 2年上(中学2年11月), 4年上(高校1年11月)

(2) 特定の課題に関する調査 2006年 国立教育政策研究所

2005年2月17日に全国の国公私立の中学校100校, 3231人の生徒を対象にペーパーテストで実施。

書き

出題漢字	音訓別	配当学年等	熟語	通過率(%)	問題文
熟	音読み	小学校第6学年	○	41.7	ジュクレンを要する仕事。

中学校2年生に「熟練」を書くようにもとめたが、通過率が4割台だった。字形を正確に把握していない。この語については、正答問題数の多い生徒も書けない傾向がみられた。

国立教育政策研究所は、「日常生活での使用頻度が低いものについては、低い通過率を示している」としている。

3. 読みかた・音と訓

音の〔ジユク〕は小学校段階だが、訓の〔うれる〕は中学校段階に割り振られる。

1. 音訓

熟	ジユク	Ⓐ 常	(名詞・ス動詞) 熟している, 完熟, 熟読, 熟語
	う-れる	Ⓑ	(自動詞) カキの実が熟れる

Ⓐ 「当用漢字音訓表」(1948年)に収録された音訓。

Ⓑ 「常用漢字表」掲載の音訓。

赤字「国字研プリント」の文に掲出のコトバ。

2. 和語の語幹・活用語尾と【送りがなのつけかた】

う・れる 【熟れる】 〈自動詞ラ行下一段〉 (*通則1本則)

(*「送り仮名の付け方」(1973年内閣告示)本文による。)

活用形一覧 (赤字が辞書形)

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	熟れる	熟れない	熟れた	熟れなかった
ていねい形	熟れます	熟れません	熟れました	熟れませんでした

3. 混種語動詞の語幹・活用語尾

じゅく・する 【熟する】 〈自動詞サ行変格活用〉

活用形一覧 (赤字が辞書形)

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	熟する	熟さない	熟した	熟さなかった
ていねい形	熟します	熟しません	熟しました	熟しませんでした

(連体形) 熟すること (仮定形) 熟すれば (命令形) 熟せよ

じゅく・す 【熟す】 〈自動詞サ行五段活用〉

活用形一覧 (赤字が辞書形)

	非過去		過去	
	肯定	否定	肯定	否定
ふつう形	熟す	熟さない	熟した	熟さなかった
ていねい形	熟します	熟しません	熟しました	熟しませんでした

(連体形) 熟すこと (仮定形) 熟せば (命令形) 熟せ

「熟する」「熟す」は、どちらも、常用されると「未然形+さ」だが、「未然形+せ」「未然形+し」もあり、また、活用形が不規則になる面をもつ。

3. 同音・同訓の漢字

ジュク	塾 [㊦] 中
う-れる	売 ^㉔

○数字：配当学年，㊦：教育漢字外の常用漢字，中：中学校段階にわりふり，

4. 小学校国語教科書における音訓の提出学年（2020年版）

	光村 教出 東書 学図
ジュク	6年 6年 6年 6年

6年教科書本文の語

[光村図書]	[教育出版]	[東京書籍]	[学校図書]
熟語の成り立ち	熟語の構成	さまざまな熟語	熟語の成り立ち

4. 書きかた・字体と字形

「亠・口・子・丸・灬」で組み立てられており，構成が複雑である。

1. 字体



学年別漢字配当表



康熙字典



常用漢字表体



標準的な楷書

(現行字体)

現行字体と康熙字典体に，字体のちがいが無い。

2. 部首・偏旁冠脚

(1) 部首

説文解字	なし
康熙字典	火部 [カ部]
当用漢字表	火部 [カ部]
長沢規矩也	亠部 [トウ部]

長沢規矩也の部首法については，2019年5月例会資料「戦後の文字改革とむすびつけた〈部首〉のみなおし」を参照。

(2) 偏旁冠脚

部首
(火部)



音符

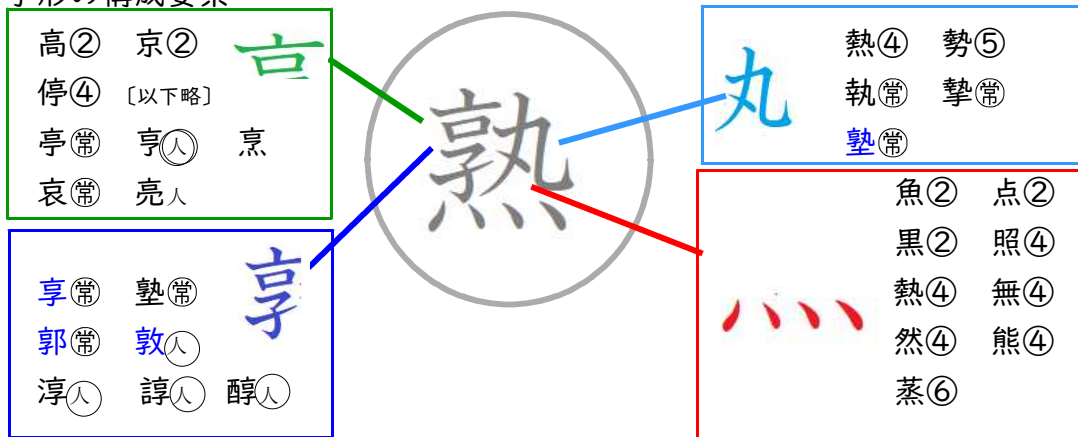


[ジュク]

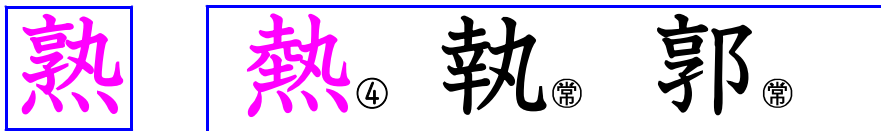


(呼称) れっか・れんが・よつてん

3. 字形の構成要素



4. 類似字形



5. 楷書の画数と標準的な筆順, さまざまな字形

小学校学習指導要領は、「漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること」としている。

15画

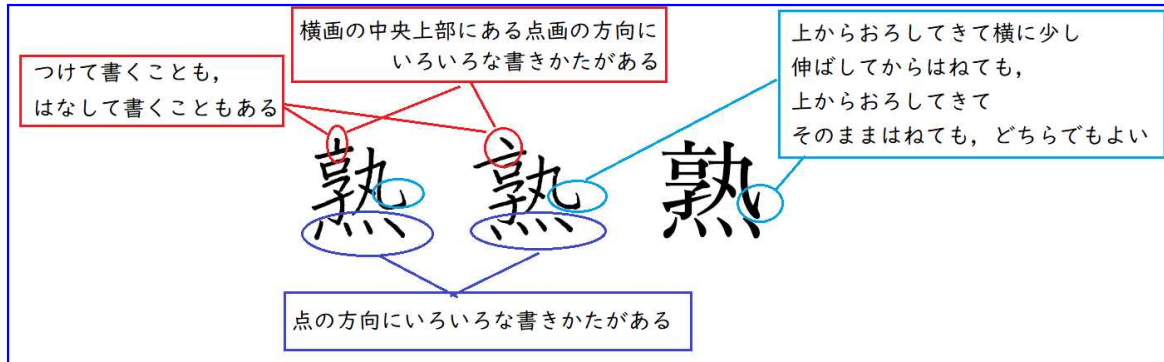
中学校行書例

小学校硬筆例

印刷文字の字形の例				
明朝体	ゴシック体	ユニバーサル デザインフォント	UD デジタル 教科書体 NR	学年別漢字 配当表
熟	熟	熟	熟	熟
手書き文字の字形の例				
熟 熟				

『常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）』
文化審議会国語分科会（2016年2月29日）を一部改編

6. 字体の正誤についての評価における許容例



7. 誤字例



8. 口唱法

(1) 下村式

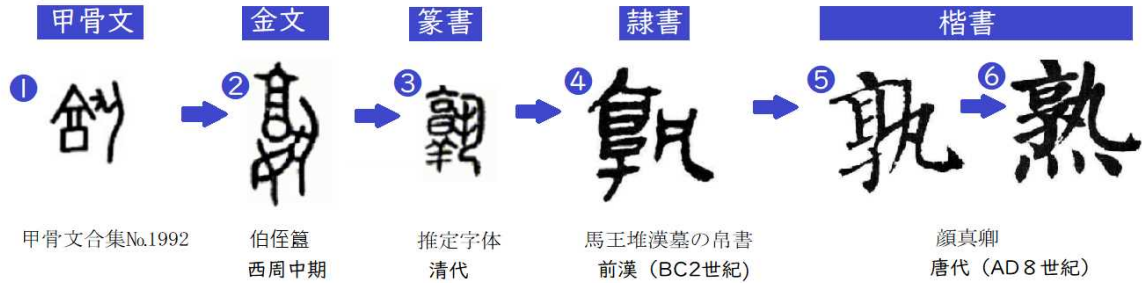
てんー [いち] □ [くち] 子 [こ] で 数字の九に てんつけて
下にてんてん 四つつけ

(2) 自由自在式

十 [ふた] して □ (ろ) っぶん まてない子 丸いタマゴ
… [れんが] で 半熟

5. 字体の変転と字源説

1. 字体の変転

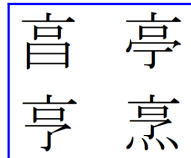


隸書以降になると、かなりの数の用例が登場しますが、それ以前のもの現状きわめてとぼしい状態です。

① 甲骨文は、『甲骨文合集』という書物に2例採用されていますが、「熟」に相当するものかどうか、明確ではなく、現段階の甲骨文研究では、基本的にとりあげていません。

② 金文もやや不透明です。西周中期の「伯倓簋」[ハクチキ]（白致簋とも）という調理した穀物を盛るための容器にいこまれているものが代表的といわれています。この字は、一説によると《宗廟のまえに進み出て物をそなえるところをえがく》といえます。

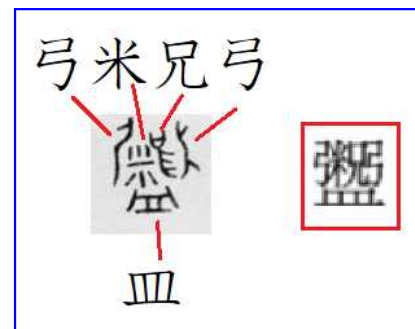
② 図の左上は、楷書にすると右図にあるような字に相当し、左下は「女」、右がわは「人+手」からなる「𠩺」[ケキ]で、「手に物をもってささげるところの象形」という説があります。



金文の異体字には、春秋時代早期の「叔夜鼎」にいこまれている一字があります。【右図】

「粥」と「皿」と「兄」から構成されます。

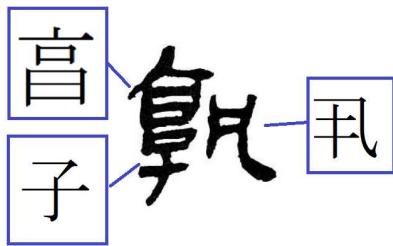
この「兄」は《いわう》という意味で、のちに「祝」[シュク]の字ができました。《煮る》という意味をもち、「兄」[シュク]が形声音符とみる説があります。この[シュク]が転じて[ジュク]になっていったというのです。



③ 篆書は、該当時代のもものがなく、18世紀の清代に推定で書かれたものです。後漢の『説文解字』で「熟」（孰）は、あつかっていません。

④ 隸書は、いずれも1970年代になって発掘された、BC3世紀秦代にあたる睡虎地秦墓から出土した竹簡に3例、BC2世紀前漢代にあたる馬王堆漢墓から出土した竹簡に10例、銀雀山漢墓から出土した竹簡に数例がみとめられ、現状では、これらをベースに字体研究がすすめられています。

④ 隸書



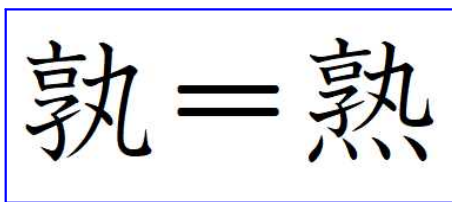
「𠂔+口+日」は、「亨」の古字で「高+日」で、「神に飲食物をたてまつる」が有力な説のようです。ほかに「宗廟の象形」「城壁上の望楼の象形」「煮る器物の象形」など諸説があります。金文の「女」は「子」になっています。「𠂔」[ケキ]は「人+手」。「ひとが手で動作するさま」をえがく動詞記号とか、「手に物をもってささげるところの象形」などの説があります。

こうした解釈がありますが、用例からは、現行の「熟」とほぼおなじ《煮る・よく煮る・煮える》《うれる・作物がみのる》《条件がじゅうぶんなところまで発展する》などの意味でつかわれています。

これらの意味と字源とをむすびつける決定打にいまひとつ欠けるのが現状です。

⑤ 楷書は、AD8世紀唐代の顔真卿のものをピックアップしました。

⑥ は、おなじ顔真卿が書いたものですが、「孰+灬」となっています。



「孰」も「熟」も同義です。音もおなじです。そこで、漢和辞典は「孰」を、熟の「初文」（初めて作られた時の字体。意味の変化に応じて偏旁が加わる前のかたち）としています。

唐代の書には、「孰」と「熟」と両様書かれているのが残っています。

さかのぼると、後漢の「白石神君碑」（AD1世紀）という石碑に篆書の「𠂔」があり【右図】、おそらくこれが「灬」をくわえた最初の例かとおもわれます。

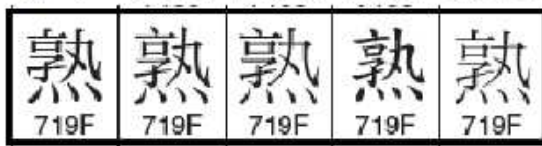


《にる》のだから「火」をくわえたのでしょう。

唐代以降、「熟」と書くのがひろがり、いまにつづいています。

日本 中国 台湾 香港 韓国

各国の常用字体の比較



日本「常用漢字表」、中国「通用規範漢字表」、台湾「常用国字」、香港「常用字字形表」、韓国「漢文教育用基礎漢字」

※安岡孝一・安岡素子『日本・中国・台湾・香港・韓国の常用漢字と漢字コード』（京都大学人文科学研究所，2017年）をもとに構成した。

2. 字源について

原義が《煮る・煮える》とみる点で諸説は一致します。しかし、用例からこのことがいえるのであって、字体から確証をえることができません。

諸説は、それぞれのべていますが、説得力に欠けます。

- A [藤堂明保] 会意文字。「亨」は《南北に通じた城郭》のかたち（「郭」の左がわの部分）。《つきとおる》意をふくむ。「亨+羊」は「亨」の下部に「羊」印をくわえた会意文字で、ヒツジ肉にしんを通すことをしめす。「熟」は「亨+羊」《肉にしんを通す》+ 𠂔（人+手）《ひとが手で動作するさまをえがく動詞記号》+ 火で《しんに通るまでやわらかく煮ること》。
- B [阿辻哲次] 会意兼形声文字。「火」と「孰」[シュク/ジュク]《にる》とから成り、《にる》意を表す。「孰」のあとにできた字。
- C [白川静] 形声文字。音符は「孰」[ジュク]。「孰」のもとの字は、煮炊きする器に「𠂔」[ケキ]（手にものもつ形）を加えて、煮るの意味の字であり、熟のもとの字である。

小学生向け学習漢字辞典の字源解説

小学館 例解学習漢字辞典	亨は通りぬけること。それに丸（人が何かをするようす）と 灬（火）をつけて、火で、しんがとおるまで、やわらかくにることを表す。
学研プラス 新レインボー 小学漢字辞典	亨は「亨+羊」、丸は「𠂔」がかわったもの。「亨」（スムーズに通る）とヒツジを合わせて、羊によく火を通すさま。それに「𠂔」（両手をさしだす）を合わせた「孰」は、時間をかけてたっぷりとにこむようす。たっぷりとなじませるというイメージをとる。「孰」と「灬」（火）を合わせた「熟」は、火をたっぷり通してにることをあらわした。火がしんととおるまで、やわらかくにること。
光村教育図書 小学新漢字辞典	「灬」（火）と、「孰」ジュク（食物をやわらかくする）とを組み合わせた字。火にかけて、しんがやわらかくなるまでにること。
三省堂 例解小学漢字辞典	形声文字。「孰」が、やわらかくなるまでにることを表す字で「ジュク」という読み方をしめしている。これにさらに「火」（灬）をくわえてもの。
ベネッセ チャレンジ 小学漢字辞典	形声文字。「灬」（火）と「孰」ジュク（よく煮る）を合わせた字。ものを火でよく「煮る」という意味を表し、のちに、よく実る、「うれる」という意味にも使う。
旺文社 小学漢字新辞典	形声文字。意味を示す「灬」（火）と、音を示す「孰」（ジュク。やわらかい）を合わせた字。火で熱してやわらかにする意味。
三省堂 小学漢和辞典 （長沢規矩也）	「ジュク」という音を持つ孰と、火を合わせたもの（灬は火を平らにつぶした形）。「食物などを火でよく熱してやわらかくする」意味。

6. 意味の変転

赤字は、別ファイル「語釈・語例集」に掲載の語。

熟の変転状況

核となる意味は《時間をかけて、変える／変わる》

① A (原義) ≡ 【煮】【烹】【煎】 → 【生】

時間をかけて煮こむ・たべものが煮えている・火がとおっている

現代日本語 煮熟 半熟たまご

B (基本義)

② 時間をかけてやわらかくなる・くだものなどがじゅくしている

現代日本語 カキが熟れる 熟柿 よく熟れたバナナ 早熟ミカン
ウメの実が熟する 熟す リンゴが成熟する
完熟トマト 未熟のトマト

③ 加工した・精製した → 【生】

中国語用法

熟皮子 (なめした革)

熟鉄 (炭素の含有量を少なくした軟質な鉄)

熟菜 (調理済みの惣菜)

日本語用法

④ なれる・熟成する ≡ 【酵】

熟成*味噌 チーズの熟成* 熟鮫* [なれずし]

C (派生義)

⑤ 時間をかけて十分な状態になる (にする)

じゅうぶんに身につく・すっかりできあがる

よくなれてじょうずになる

現代日本語 (*は、日本語のみの用法)

熟練 熟達* 習熟 熟成*

成熟 完熟 早熟 半熟 未熟 芸が熟す

熟年 熟語 熟字

⑥ よくよく・じっくりとそのことをする

現代日本語

熟視 熟読 熟睡 熟慮 熟考 熟議

成熟 円熟 機が熟する